

「アジア夢カレッジ―キャリア開発中国プログラム―」リニューアルについて

1. 背景

平成 16 年に「アジア夢カレッジ―キャリア開発中国プログラム―」第 1 期生を受け入れ、平成 17 年に中国大連に派遣して以来 13 年が経過した。この間、本プログラムで 153 名が留学とインターンシップを経験し、社会に巣立った。

開設当時、本プログラムは、留学とインターンシップを実施するという他に見られない画期的なプログラムで、平成 16 年「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）」にも採択され、文部科学省だけではなく、マスコミ等からも大変注目された。最近も、平成 27 年度には日本インターンシップ学会により、優れたインターンシップの取り組みとして評価され、「槇本賞」を受賞した。10 数年を経た現在でも、その内容は高い評価を得ている。

また、文部科学省「平成 24 年度経済社会の発展を牽引するグローバル人材の育成支援」事業の採択理由の一つとして、本プログラムの取り組み内容が高く評価されている。さらに、上記事業の中間評価（平成 26 年度実施）においても、『「アジア夢カレッジ」等での経験を反映した取組を進めており、「行動力あるアジアグローバル人材の育成」の理念の下、海外でのインターンシップと取組を中心とした異文化対応力の育成を実施していることは評価できる。（中間評価結果から抜粋）』との評価を得た。この評価対象には本プログラムだけでなく、国際関係学部多文化コミュニケーション学科で現在展開している「多文化インターンシップ」も含まれているが、このインターンシップもアジア夢カレッジをモデルとして具体化したものである。

以上、本プログラムは、学内外で現在実施されている海外インターンシッププログラムのリーディングプログラムであると言っても過言ではないと考えている。

しかし、環境は大きく変化している。これまでの 10 数年間も、中国の政治・経済をめぐる世界情勢、日中関係、国内の災害・不況などの環境変化に、本プログラムは幾度となく厳しい状況に置かれた。また学生ニーズの変化もあり、その都度、必要に応じたマイナーチェンジを行ってきた。しかしながら、最近の中国大連での製造業中心からサービス産業へのメイン産業の変化や、平成 28 年度の本学都市創造学部開設（中国大連を含むアジア圏への全員留学必修）等に伴う、本プログラムを取り巻く諸条件の変化は、さらに大きな変革を必要としている。そこで、学内外の海外インターンシッププログラムのリーディングプログラムであり続ける為に、以下の通り抜本的な改革を行うこととなった。

2. 現在の課題

インターンシップ受入企業等の意見も踏まえ、以下のような運営上の課題が認識されている。

- ①本インターンシップが、中国大連の厳冬期に実施される為、業種によっては業務量が少ない。また、この時期は道路の凍結等もあり、学生の通勤途上の安全性の確保に関して、企業側から心配の声が上がっている。
- ②在大連日系企業においては年末年始休暇で 1 週間ほどインターンシップの実施ができない。
- ③春節が毎年変わっており、プログラムスケジュールを組むのに苦慮し続けている。
- ④新学部（都市創造学部）の留学・インターンシップの実施時期が 2 年次後期であり、国内における事前教育等の内容の違いにより、本プログラムと都市創造学部希望学生間に語学力等に差が生じているた

め、大連外国語大学、在大連企業において学生管理上の混乱が懸念される。

⑤派遣要件としている中国語検定3級取得（多くの学生は11月末に取得、最終は3月末受験・翌年4月取得）後、留学・インターンシップ開始までの期間、特に2年前期における学生のモチベーション維持が困難である。

3. リニューアルプラン骨子

上述2. の課題を踏まえ、プログラム改善内容は以下のとおり。

① 留学・インターンシップ期間を2年前期(3月出発～9月中旬帰国)とする。

⇒平成29年度に「新アジア夢カレッジプログラム」を公表し、平成30年度入学生から新カリキュラムを適用し、平成31年度に中国大連での留学インターンシップを実施したい。インターンシップ実施時期が、夏期に移行されることにより、上述2. ①②③④⑤が解決されることとなる。

②インターンシップ期間を現在の5週間から約8週間とする。

⇒インターンシップ期間を延長することにより、2業種でのインターンシップが可能となるだけでなく、今まで期間が短かったために受け入れを拒否された企業でのインターンシップ生受け入れ先企業の増加が期待される。

③インターンシップの中間でキャリア開発研修を実施する。

⇒本プログラムは「キャリア開発プログラム」にも位置づけられており、その特徴をさらに際立させることが可能となる。

④1年次11月末に実施される中国語検定試験で3級取得を原則とするが、その他、1年次の授業出席率、生活・授業態度等を考慮し、派遣の可否を判断し、派遣する場合は、現地にて中国語特別クラスを受講させる。

⇒インターンシップを実施することを考えれば、中国語検定3級未取得者の生活・受講態度は重要な要件である。それらを満たさない学生を派遣しないスタンスを維持することができる。

⑤帰国後2年後期、もしくは3年前期に「キャリア開発研修（授業）」を設置する。

⇒これまでも、帰国後オリエンテーションを実施し、留学・インターンシップ中の気づき等を纏めさせ、キャリアセンターの協力も得てキャリア指導をしてきたが、春季休み期間を挟み、学生の意欲維持、引き上げには、ばらつきや困難があった。専門的な研修・授業による指導が必要と考える。

以上